●第１部　食環協プレゼンテーション

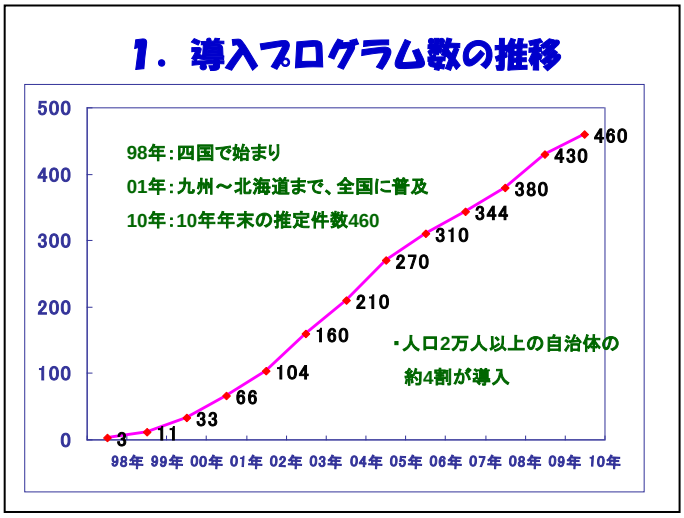
冒頭の挨拶

平素は当協会のアダプト・プログラム事業推進に格別のご支援・ご協力をたまわり厚く御礼申し上げます。

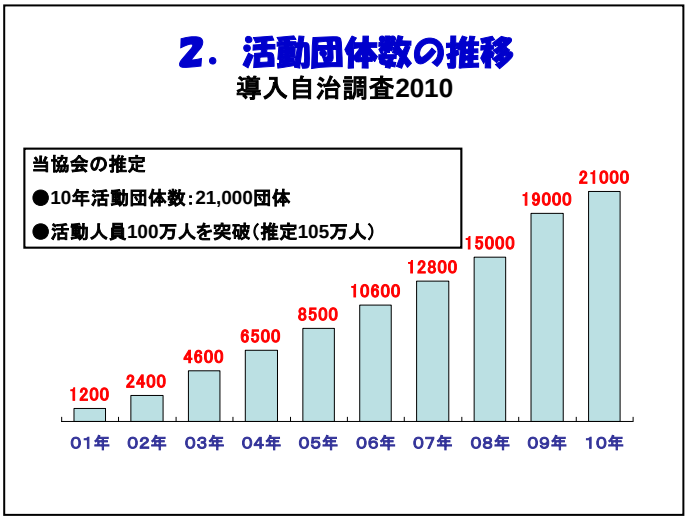
本日は毎年ご協力いただいております自治体アンケート調査を中心に、本年度のアダプト・プログラムの概況、及びトピックスについて報告します。今回 254 件のご回答をいただきました。

自治体調査結果

まず導入プログラム数の推移ですが、昨年と比べてややスローダウンしたものの、着実に増加し年末で 460 件と推定しています。導入自治体の数は 400 件超で、人口 2 万人以上の自治体 1,020 の 4 割に相当します。活動団体数も年々増加し、今年は 21,000 団体、参加人員は 100 万人の大台を突破し 105 万人と推定しています。美化活動の中で、アダプト活動の比重が高まっていると思われます。



活動団体の内訳は、3 年連続で企業が 1 位を占め、今回初めて企業の事例発表をお願いした次第です。以下、順位に特に変動はありません。今日ご登壇の長野県・岡山市は逆に企業の比率が一ケタで、2 位＋3 位（町内会・自治会＋環境団体）の比率が 7 割を超え、地元市民の地域愛着心の見本と言えます。



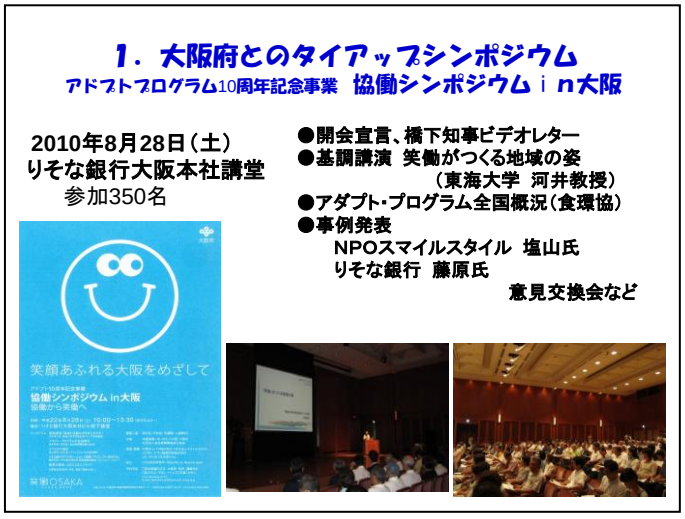
アダプト・プログラムの位置づけ、評価、育成の 3 点について、各自治体の取り組みを伺いました。1 点目はアダプト・プログラムが県・市の方針・総合計画の中でどういう位置付けにあるかですが、特徴的なこととしては、県は総合計画の中で市民との協働、あるいは市民参加の推進事業としてアダプトを位置付けているという回答が多かったのに対し、市町村は、きれ

いなまちづくりの一環として進めているという回答が多かったことです。

次にアダプト・プログラムの評価ですが、評価をしているか否か、している場合の評価基準は何かを伺いました。63 件実施の回答をいただきましたが、約半数の 33 件から、参加団体が基準であり、目標値を決めてその達成率がどの程度であったかが評価基準という回答を得ました。その他、自治体内部での評価基準、あるいは定量的なものとしては、道路の長さ、あるいは場所の面積などが挙げられています。

3 点目はアダプト活動を通じた参加者、地域の担い手の育成に関する質問です。回答は 12 件にとどまりました。アダプト団体の協議会・交流会での情報交換による連携促進や学習会開催が挙げられています。また、特定の公園でアダプト団体にとどまらず、美化活動の団体を含めた交流会・講演会を開催している例がありました。

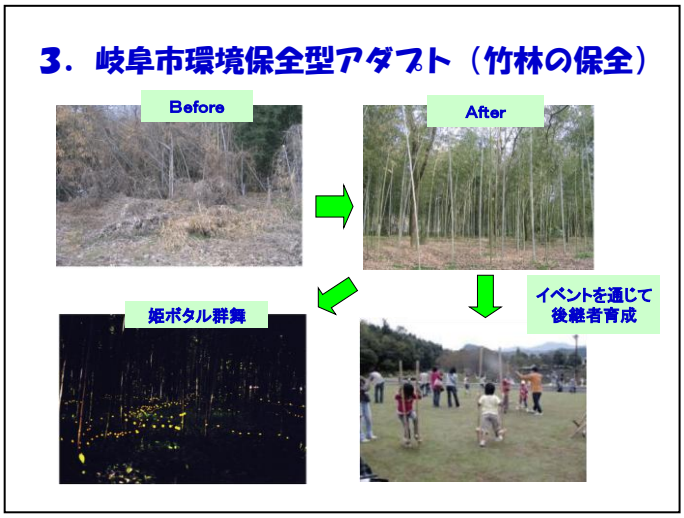
アダプト・プログラムの導入成果ですが、これまでと同様、美化の実行、美化の啓発、愛着心等々、広範な効果が認められています。一方問題点・課題に関しては、制度の周知、市民意識の向上、ボランティア育成、仕組みづくりが挙げられています。この 1 年間のマイナス面の変化としては、活動のマンネリ化、停滞、高齢化、担い手の後継者難といったことが目立っています。



次にトピックスです。まず大阪府の事例で 2 つあります。今年の 8 月に大阪府のアドプト制度 10 周年を記念し、食環境と大阪府のタイアップシンポジウムを開催しました。冒頭橋下知事のビデオレター、東海大学の河井先生の講演、地元 NPO のユニークな活動事例紹介、会場を提供いただいたりそな銀行の様々な協働の取り組みについて発表いただきました。食環境は、東京以外でも、各地の自治体と協働でのシンポジウム開催を進めていますので、今後ともご協力をお願いします。昨年は磐田市、一昨年が洞爺湖サミットに絡めて北海道で開催。その他、仙台市・広島県と共催しています。

大阪府の 2 点目。このシンポジウムをきっかけに大阪府の新しい取り組みがキックオフされました。「笑働 OSAKA」を旗印に掲げ、笑顔と感謝をキーワードに、大阪府民・官を挙げて、大阪を楽しい明るいまちにしようという活動が進められています。参加すること、伝えること、感謝を表すことがいずれも笑働という、これから期待される取り組みだと思います。

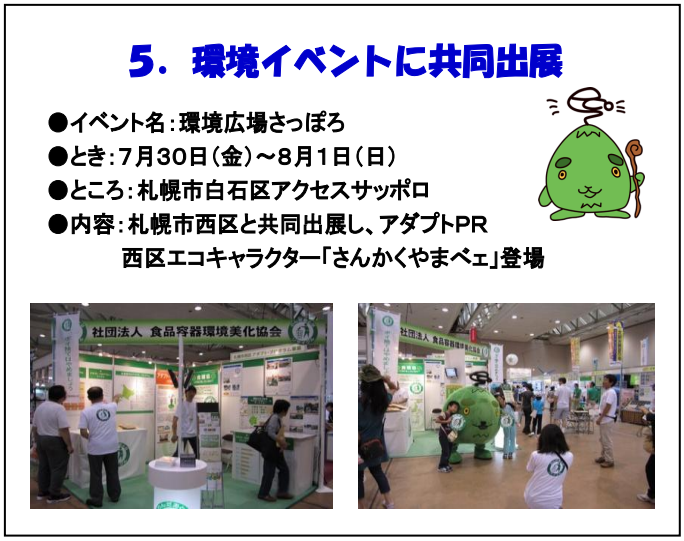
次に岐阜市の事例です。「ぎふまち育て隊」の名称で、従来から一般型・創造型・文化財型の 3 つのパターンで展開していますが、昨年から環境保全型が加わりました。参加する側にとって、何をやっているかが分かりやすく、参加しやすいものだと思います。環境保全型の例をご紹介します。荒れた竹林を整備することにより間伐材の有効利用、蛍の群舞、あるいはイベントの開催等を通じて後継者の育成にも結びつく効果が出ています。



次に、アダプト・プログラムの研究会です。一昨年からスタートし、昨年は東海大の河井教授に座長をお願いし、自治体の訪問、アダプトの課題について色々な角度から討議を進めています。今年は、集大成の年と位置づけ、3 年間の成果を来年の春に報告書としてまとめ、皆様にご紹介する予定です。

次は、環境イベントでの共同出展です。食環協は全国各地の環境イベントに出展・参画していますが、今年から開催地区の自治体、団体へブースの共同出展を呼び掛けています。札幌市西区との取組みを紹介します。

会場に西区の活動団体の方が来られて情報交換をしたり、キャラクターの着ぐるみも登場し、子どもたちの集客につながるなど、盛り上がりが図れました。今後も各地で進めていきたいと思います。



その他、（財）地方公務員等ライフプラン協会のご協力で情報誌ALPS10号にアダプト・プログラムを紹介していただきましたのでご覧下さい。（全自治体に送付済です）